

そのような中で、ガラスペンの存在を知った（2,000円程度）。これは、先尖形のガラス棒の先端部に向けて螺旋状に刻まれている複数の細溝からインクが紙に移ることで文字などが描かれるという筆記用具で、意外に人気があるらしい。無水アルコールをつけたガラスペン先端を乱れた部分に接触させることで、ごく微量がユーパラル上に移動するので目的を達することができる。

引用文献

直海俊一郎, 1999. ユーパラルを用いたハネカクシ類の交尾器等の封入と観察. ハネカクシ談話会ニュース, (8), 2-7.

Maruyama, M., 2004. A permanent slide under a specimen. *Elytra*, Tokyo, 32, 276.

(〒243-0402 海老名市柏ヶ谷1112-16
西川正明)



益本仁雄博士退職記念論文集

「MASUMUSHI (益虫)」

Special Publication of the Japanese Society of Scarabaeoidology, Tokyo

2011年4月25日 コガネムシ研究会発行

発起人：秋田勝己・安藤清志・宇都宮由佳・越智輝雄・川井信矢・藤岡昌介・森田誠司
(五十音順)

B5判, 上製本, 345頁フルカラー

価格： 6,400円(税込・送料300円)

注文先・問い合わせ： 昆虫文献 六本脚

平成 23 年 3 月 31 日, コガネムシやゴミムシダマシの研究で知られる益本仁雄博士が, めでたく定年を迎えられ, 大妻女子大学を退職された。この度, 益本博士が顧問をつとめられるコガネムシ研究会から, 退職記念論文集が出版されたのでご紹介する。

序文と略歴に続き, 益本博士の 1955 年～2010 年の 336 編の著作, 並びに博士が記載された 900 を超えるコガネムシ上科とゴミムシダマシ上科の新タクサを掲載した。本書ではこれらの単なるリストではなく, 種名や文献を検索しやすいよう配慮し掲載しており, コガネムシやゴミムシダマシの研究を志す方には必携の文献である。

さらに, 今日的第一線で活躍されているベテラン・新進気鋭の世界各国の研究者による寄稿報文 47 編が収録されており, その内訳は記載論文 32

編, 一般報文 3 編, 祝辞 12 編となっている。コガネムシ上科に限らず, 広く甲虫に関するもので, 分野別にみるとゴミムシ, チビシテムシ, ハネカクシ, アリヅカムシ, クワガタムシ, クロツヤムシ, コガネムシ, タمامシ, コメツキムシ, ジョウカイボン, ベニボタル, ホソカタムシ, ハナノミ, ゴミムシダマシ, カミキリムシ, ゾウムシと多岐にわたっている。

そして本書の特徴でもある, 博士の著作に使用された細密画のギャラリーは, 昆虫画を描かせたら右に出る者がいないといわれるほどの達人, 故遠藤俊次氏や井村有希氏の力作, また昆虫写真は木内信氏が腕をふるわれた精巧なもので, オリジナルを可能な限り美しく再現した一見の価値がある作品集である。

その他, 海外の博物館やフィールドで博士が交流した人物との思い出の写真, 博士が携わった半世紀前から最近に至る時期までの昆虫雑誌や図鑑などの書籍のカバー写真も収録されている。

本書は, 論文集であるばかりでなく, 図録でもあり, 読んでよし, 眺めてよし, 参考にしてよしという, 今までとは異なったユニークな記念出版物となっている。

(コガネムシ研究会 川井信矢)

